

氏 名：牛 尾 陽 子

学 位 の 種 類：博士（看護学）

報 告 番 号：甲第97号

学 位 記 番 号：博第95号

学位授与年月日：令和2年3月17日

学位授与の要件：学位規則第4条第1項該当

論 文 題 目：ICUにおける看護師の「触れること」：

触れることはいかに生み出され、ケアに繋がるのか

Touching by Nurses in Intensive Care Unit:

How Touching Is Created and What It Means for Nursing Care

論 文 審 査 員：主査 三 浦 英 恵

副査 守 田 美奈子（正研究指導教員）

副査 江 本 リ ナ（副研究指導教員）

副査 川 原 由佳里

副査 吉 田 みつ子

論文審査の結果の要旨

看護実践の場面では、看護師が患者に触れるという行為を通して様々なケアが行われている。触れる行為は看護実践にとって自明のことであるために、実際にどのように看護師が患者に触れ、触れることによってどのようなことが生じているのかについては明らかにされてこなかった。

本研究が対象とした集中治療室 Intensive Care Unit（以後、ICU と表記）では、意識レベルが低下し異常を自ら訴えることができない患者が多いため、看護師には高度な判断力や迅速な対応力などの実践力が求められる。本研究は、ICU という場で、脆弱な状態にある患者に対して、看護師がどのような場面において患者に触れているのか、その行為がもたらす看護ケアとしての意味を明らかにしようとした研究である。

研究者は、クリティカルケア領域における看護師の触れる行為を捉えるために、2施設のICUにおいてフィールドワークを行い、2施設10名の看護師が、受け持ち患者13名に関わる看護場面を参与観察し、さらに看護師へのインタビューを組み合わせることによってデータを収集した。これらの方法が、触れる行為に関する状況描写や看護師の行為、判断に関してリアリティのある詳細な記述に繋がったことが評価された。

結果では、看護師たちが極めて重篤で意識レベルが低下している患者や容態が変化しやすい患者に対し、身体への侵襲を最小限にするよう配慮して触れ、さらに触れることを通して、身体を通してしか捉えられない微細な状態変化を把握していることが示された。また、機器類などに間接的に触れることによって痰の貯留具合等を把握し呼吸ケアにつなげていることや、触れることによって患者に心身の安寧をもたらす、関係性の構築を図っているなど、7つの特徴が明らかとなった。触れることがどのように成され、ケアへとつながっているのかというICUでの実践の様相が丁寧に記述されていると評価された。

さらに、ICU(クリティカルケア)領域の看護師の触れる行為は、テクノロジーと相補的であり、かつ目前の状況に対応するために複雑な意図をもつ行為であり、また状況変化に対応するために不断に変化するダイナミックな行為であるという考察の深まりによって、これまで明らかにされてこなかった高度な実践力であることが示された。同時に、本研究の成果は、クリティカルケア領域における意義のみならず、あらゆる看護実践の場に通底する触れるケアの特徴を描いているものであり、看護の本質の一面を表していると評価された。

審査の結果、本論文は本学の審査基準を満たしていると判断し、博士（看護学）の学位論文として「合格」と判定した。